

【No. 1】 工事監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 完成検査は、施工者が自主的におこなう検査である
2. 完成検査後の工事の目的物の引渡しは、施工者が必要に応じて発注者に説明をする
3. 施工者は瑕疵担保期限内において、発注者または監理者と協議の上、工事全般について、瑕疵の調査を行う
4. 完成検査の結果、不適合箇所が指摘された場合、施工者は速やかに補修をおこなう

答. 1

【No. 2】 商業施設の内装監理業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 諸官庁との調整
2. 設計指針書の作成
3. 施工指針書の作成
4. 施工中の統括安全管理

答. 4

【No. 3】 基本設計段階の積算業務に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 各種の積算データを活用した工事費の算出
2. 維持管理上のランニングコストの算出
3. コスト縮減のためのヴァリューエンジニアリングなどの手法を用いた代替案の提案
4. 事業計画をもとに概略の積算をおこなう

答. 4

【No. 4】積算・見積りに関する次の記述のうち、に入る最も適切な組み合わせはどれか。

A とは、「ある一定単位の仕事を行う場合に必要な一定の作業量、材料量で表わすこと。」をいう。また B とは、「使用した材料（規格材料）に対し、実際それからつくられた製品量の割合」をいう、材料ロスの少ないときは、 B がよいという。

- | | A | B |
|----|-----|-----|
| 1. | 歩合い | 歩掛り |
| 2. | 歩掛り | 歩留り |
| 3. | 歩留り | 歩合い |
| 4. | 歩掛り | 歩合い |

答. 2

【No. 5】工事契約に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コストオン発注方式は、一式請負と分割請負方式をミックスさせた請負方式である
2. 瑕疵担保責任とは、保証されるべき品質の欠陥に対し、工事監理者が修理、補修、損害賠償を負うべき責任である
3. 工事請負契約書に工事引渡し後における、瑕疵担保に関する取り決め事項を記述した
4. 見積り合わせは随意契約の決め方の一つである

答. 2

【No. 6】石工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 石工事の施工法は、大きくは乾式工法と湿式工法に分類される
2. 床仕上には敷モルタル工法があり、石厚の2.5～3倍の仕上げしろが必要である
3. 床仕上の工法には空積工法があり、引き金物等はステンレス（SUS304）を使用する
4. 壁面仕上の工法として規格品で9～15mmの薄い石があり、接着工法も採用されている

【No. 7】組積工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートブロック工事に使用するモルタルは、凝結したモルタルを使用してはならない
2. レンガは吸水率が高いので、積む前に一度、水で湿らせてから積む
3. コンクリートブロック工事において、1日の積み上げ高さを2.1mとした
4. ALCは耐火性・断熱性にすぐれ、普通コンクリートより軽量という長所がある

【No. 8】金属工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 壁面の軽量鉄骨下地組において、スタッドの間隔は、下地張りのある場合、300 mm程度、一層張りの場合450 mm程度とする
2. 壁面の軽量鉄骨下地組において、ランナーは、端部を押さえ、900 mm程度に打込ピン等で、床、梁下、スラブ下等に固定する
3. 天井ふとところがH=1500 以上の場合に軽量鉄骨下地を行う場合、必ず振れ止め等補強が必要であり、斜め材での補強等を行う
4. 天井の軽量鉄骨下地において吊ボルト及びインサート間隔は900 mm以内とし、端部からは150 mm以内とする

【No. 9】建具工事に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建具には木製、鋼製、アルミニウム金属製、ガラス製、ビニール・プラスチック製がある
2. 建具は使用場所によっては、対風圧性、気密性、水密性等が求められる
3. 金属性建具は、建具と枠とを一体として製作する

4. 木製建具は、枠を含めて建具工事としている

答. 4

【No.10】 電気設備工事に関する次の記述のうち、**最も不適当なものはどれか。**

1. 電線材は、電気用品安全基準法に準拠した製品を使用すること
2. 内線規定に準じた施工方法を実施すること
3. 分電盤は扉が常時 90 度以上開き、点検可能とすること
4. 水廻りのスイッチ、コンセントは水が掛からないように施工すること

答. 1

【No.11】 石材に関する次の文章において、**あてはまるものはどれか。**

『石灰岩が熱や圧力を受けて再結晶したもので、変成岩の一種。緻密で強度が大きく吸水性は小さいが、耐酸性や耐火性に乏しい。』

1. 大理石
2. 花崗岩
3. 凝灰岩
4. 砂岩

答. 1

【No.12】 防犯用のガラスの製作方法に関する次の記述のうち、**最も適当なものはどれか。**

1. 強化ガラスの表面に飛散防止フィルムを張る
2. 倍強度ガラスの表面に特殊な金属膜によるコーティングを行う

3. ソーダ石灰ガラスを原材料とする板ガラスに特殊な強化処理をする
4. 2枚の板ガラスの間に強靱で柔軟な特殊フィルムを挟む

答. 4

【No.13】断熱材に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 材料中に含まれる空気の対流による放熱で断熱効果を得ている
2. 水分を含むと断熱性能は低下する
3. 結露防止に効果があるが、ヒートブリッジに注意する必要がある
4. グラスウールは断熱材であるが、不燃材料でもある

答. 1

【No.14】材料と比重の組み合わせで、最も不適当なものはどれか。

1. スギ ————— 0.38
2. ポリカーボネート板 —— 1.2
3. 板ガラス ————— 1.9
4. セメントモルタル —— 2.1

答. 3

【No.15】材料の防火性能に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 繊維混入けい酸カルシウム版を、鉄骨柱に厚さ 25 mm で巻くことで 1 時間耐火となる
2. 不燃材料とは、加熱開始後 10 分間は燃焼したり変形したりしない、また避難上有害なガスや煙が発生しない材料である

3. フレキシブルボードは不燃材料である
4. しっくい是不燃材料である

答. 2
